竜西だより

１１月号
2016年11月1日
竜王西小学校
児童数：297名
学級数：14学級

校長　富長宗生

学校教育スローガン

学び きらきら　心 うきうき　行い どんどん

子どもの自主性を育てる！時間管理術

「見える化」・「細分化」・「一元化」

ＰＴＡ教育講演会は１０月２４日（月）に、多くの保護者(89 名)のご参加を得て、大変盛況に終了いたしました。ＰＴＡ研修部の皆さん、本当にご苦労様でした。

講師の星野けいこさんはＮＫＫ『あさイチ』に出演もされた方で、数冊のご著書も書かれ、特に「子ども手帳術」を推奨されている方でした。

当日、講演の中で、星野さんは時間管理術の要点として「見える化・細分化・一元化」を強調されました。

先ず「見える化」とは文字にするということでした。文字化することの意味は、子どもには時間感覚がないからとのこと。子どもにとっては目の前のことが一番大事なので、「時間」が見えていない。だから、見通せるようにすることが大切であるとの指摘でした。

次に「細分化」が重要で、細分化とは細かく具体的に記すことです。例えば、“片付けなさい”と子どもは言われても、何をどこにどう片付ければよいか分からないからとのこと。

このように、時間とやるべきことが見えるようにすることが重要で、そうすることによって初めて、実効性のある計画が立てられるとのこと。

最後は、それを「一元化」すること。一元化とは、見える化・細分化したものをひとつの手帳に管理するという意味で、そうすれば、手帳一つで、大切な事柄は全て把握できるからとのことでした。

そして、これらを子どもに押しつけてはいけない。親から子への指示書ではいけない。時間はかかるが会話を通して、達成感や自己肯定感を子どもが感じられるようにしてあげることが大事とのお話でした。

ワークショップも取り入れながらの、あっという間の１時間半でした。

下の月行事も、いわば「見える化」の一つといえます

１１月行事

１日（火）『竜王町教育の日』
　　ﾁｬﾚﾝｼﾞﾏﾗｿﾝ（大会前練習）スタート
７日（月）クラブ
８日（火）暗唱ラリー　避難訓練
９日（水）なかまタイム
　　青少年育成町民会議あいさつ運動
１０日（木）縦割り遊び
１２日（土）竜西フェア（登校日）〈弁当持参〉
１４日（月）＜１２日の振替休業日＞
１５日（火）全校読書
１７日（木）食育の日
　　５年社会見学（大阪）
　　竜中入学説明会 PM
１８日（金）移動図書館
１９日（土）町教育フォーラム14:00～（公民館）
　　ファミリー読書（～２０日）
２１日（月）クラブ　　きらきら交流
２２日（火）暗唱ラリー
２３日（水）＜勤労感謝の日＞
２４日（木）学校保健委員会
２８日（月）クラブ
２９日（火）お話タイム　４年校外学習

※毎週火・金曜日はＰＴＡによる校区内パトロール

「早くやりなさい！」
「今、やろうとしてたのに！もうやる気がなくなった」

　でも、子どもに自主的な時間管理術を身につけさせるのは、本当に難しいことです。
　例えば親が勉強を促すと、たいてい言われるのが「今やろうとしてたのに、言われたらやる気がなくなった」という言葉ではないでしょうか。昔からおなじみの「子どもの勉強の言い訳あるある」と言えますが、これってどういう心理なのでしょうか？
　なるほどと思う文章がありましたので、ここに要約して紹介いたします。

　このセリフには 2 つの心理があります。
　ひとつは“本当にやろうとしているからこそ出た言葉”で、親からとがめられたのでやる気をそがれたケース。頭ではやらなければと思っているのに、身体は拒否してしまうというものです。
　この場合、子どもはウソを言っているわけではなく、「やるつもり」にはなっているものの、身体が拒否していることに気づいていない状態です。ただし、それで実際に何も注意しないと、子どもはそのまま寝てしまったり、ダラダラして勉強せずに終わったりというのはよくあること。親はまず「今やろうとしていた」という子どものセリフをいったん認めること。そのうえで一度きちんと話し合いましょう。
　頭で思っただけでは行動にはなかなかつながりません。そのため、子どもには、きちんとした生活リズムを作り、メリハリをつけて計画的に習慣化しないと体が動かないということを説明し、しっかりと理解させることが必要です。
　子どもと話し合った上で、子どもに計画を立てさせたら、あとは見守りましょう。子どもの自主性と主体性に任せることが何より大切です。
　そして、2 つ目は親から「やりなさい」と言われてやる状況に、子どもは屈辱を感じるというものです。
　この場合、“今やろうとしてたのに、やる気をなくした”のは言い訳で、もともとやる気はなかったけど、親に言われてますますやりたくなくなったということです。
　そもそも、面白くない勉強をなぜやらなければいけないのかという不満が根底にあるため、より厄介な状況だといえます。
　勉強の必要性を伝えるには、親の勉強に対する哲学が問われます。実際のところ、多くの親が「勉強は面白くないが、将来のために仕方なくやるもの」と思っています。にもかかわらず「あなたの将来のため」と言っても、子どもからすれば矛盾に満ちていて、言われても効果がないのです。
　「今やろうと思ったのに」と言われたら、まずは上記の２つのどちらなのか考えてみることです。そして、親自身も勉強の意味を考えてみる必要がありそうです。

親子には「子育て」「子育ち」の二つの視点が大切ではないでしょうか

　「子育て」はいわば「親」の立場であり、ご飯を食べさせることから始まり、社会のルールを教えるなど文字通り育てるということです。これはいわば「親」からの視点です。
　「子育ち」は反対に「子」からの立場で見る視点です。この場合に、大人(親)がやるべきことは、介入をできるだけ避け、子どもの環境を整えることに努めることです。
　「育(はぐく)む」の語源は「羽(は)くくむ」、鳥が羽の下に雛を包んで子育てをすることからきているのだとか。「くくむ」は「包む」の古語です。
　最終的な“巣立ち”を手助けはできません、ただ、私達(親)は見守るしかありません。

子どもの成長に必要な四つの「し」

　子どもが育つには四つの「し」が必要です。
　一つ目は「仕事」です。これは具体的役割とも言えます。家族や学校、地域において子どもはそれぞれ役割を担い、遂行することで自信を付けます。
　二つ目は「仕組み」で、子どもが育つには発達の装置が必要です。
　三つ目は「示し」。これは目標とする人、モデルということです。あのような人になりたいという目標が、身近にいれば幸せです。
　最後は「承認」です。これは子どもを社会的に認め、きちんと評価するということです。
　子どもが育つためには役割や期待と場、そして支える人と時間が必要になります。しかし、問題は子どもを育てる大人の側に、その力があるかどうかでしょう。昔と今の子どもとでは変わったと言う前に、「何でもあり」の現代社会を大人たちがつくり、生み出してしまったことへの反省が必要です。

伊東市「広報誌」から